

工夫する。

各学年あるいは三年間の指導に系統性、発展性を持たせるためには、題材の体系化、指導の構造化を図る必要がある。そのために例えば「資料1」のような「学級活動における進路指導の題材系統表」にまとめることは、教師間の共通理解を図るのに有効である。

この系統表を踏まえ、各時間の指導計画を作成することになる。ここでは、今後の指導との関連を考慮する必要がある。例えば、一学年の学級活動として「資料2」のように、職場見学で得た情報を学年全体で共有化する活動にとどまらず、生徒のパネルディスプレイセッションにおいて、「さらに深く知りたいこと」というテーマを意図的に設定し、ここで話し合われた内容を二学年で実施される職場体験学習につなげていくのである。

また、啓発的な体験を通して学んだことは、「資料3」のように、必ずその後の進路学習に生かしていくことが大切である。この授業のように、将来の職業選択というやや抽象的な内容を取り扱う際に、職場体験で学習してきた生徒の具体的な体験を活用することにより、生徒たちが、課題を身近なものとしてとらえ、主体的に進路学習に取り組むようになる

のである。

体験をとおして得たものを、共有し、それらをもとにして自己を振り返り、今後の進路選択に生かすよう

にする意味からも、学級活動と啓発的な体験とを、さらに密接に関連づけていく必要がある。生徒たちにとっては、自分たちの

親は親でしかなく、職業人としての側面あるいは、職業選択・決定の先輩としての側面を持った存在とはとらえていない。子供たちにもっとも

学級活動における進路指導の題材系統表

学年	進路適性の吟味 (自己理解)	望ましい職業観の形成(価値観形成) 将来の生活の設計(関心を高める) 適切な進路の選択(進路計画)	進路情報の理解と活用 (進路先の理解)
1 年	将来の希望と進路の学習		
	自分を知る ・人と個性 ・自分の特色	・将来の夢 ・進路学習の必要性	
		職業と働く人々 ・働く人々	・職業調べ ・職場見学の意義と計画 ・職場見学まとめ
	進路の計画		
2 年		・進路計画の必要性 ・進路計画を立てる	
		働くことと学ぶこと ・働く目的と意義 ・学ぶ目的と意義	職業の世界 ・職業と産業 ・職場体験の計画 ・職場体験まとめ、発表 ・職業の内容と特色
		生き方を考える ・働く人々と生活 ・私の生き方	学ぶ制度と機会 ・勉学の道 ・上級学校
		進路と適性 ・自分の適性 ・自分の特色と進路	
	進路の計画		
3 年	将来の生き方		
		・生き方を考える ・卒業生の体験に学ぶ	

※ 平成6・7・8年度中学校進路指導総合改善事業実施校 福島市立信陵中学校 第3年次研究発表会 研究資料IIより抜粋